

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700553		
法人名	医療法人社団 宇根本会		
事業所名	グループホーム なごみ(西ユニット)		
所在地	岡山県浅口郡里庄町新庄2920		
自己評価作成日	平成26年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=3372700553-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成26年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、一人ひとりのニーズに合ったケアが出来るように、又、今できることを一緒に行い、少しでも笑顔が見られるように援助しています。庭内畑から季節の野菜を収穫したり、家族の方からの自家製の野菜を差し入れて頂き、その時期、季節感を味わいつつ、ご家族との、交流も深めています。ボランティアの方の協力も頂き、毎年来て下さる方、新たに出て下さる方など充実し、利用者の方も毎月の行事を楽しみにされています。行事の後、食事を一緒にされるなどご家族の困らんも定着し、喜ばれていると思います。利用者の体調面においても、医師との連携が出来ており、24時間体制で対応、ご家族様にも安心して頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関までの道の脇には季節の草花が植えられている。窓にはゴーヤのグリーンカーテンが勢いよく成長しており、訪問日は7月の真夏日だったが涼をかもし出していた。建物内は玄関やリビング、廊下などゆったりとしており、随所に観葉植物が置かれ、居心地のよい空間づくりがなされている。管理者は穏やかで家庭的な人柄で、笑顔で心地よく利用者に接している。職員間のチームワークも強く、利用者に必要な支援を臨機応変に提供している。また、事業所の母体である医療機関との連携がしっかりと図れており、利用者の方々の健康管理はもちろん、緊急時には24時間体制で対応が可能となっている。終末期ケアについても職員が一丸となり取り組んでいるため、終の棲家としての役割を担い、利用者や家族が最期まで安心して過ごせるサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、8:45定時に事務所に掲げている掲げている、「なごみ基本理念」を当日の勤務職員で斉唱することで一日、新たな気持ちで利用者の方と関わるようにしています。	理念を事務所に掲示し、毎朝出勤者全員で唱和している。管理者と職員が理念を共有し、利用者を人生の先輩として尊重した支援の提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の方と散歩に出かけた時に、地域の方や登下校の子供たちが気軽に声をかけて下さったり、地域、学校などの行事案内があれば、利用者の体調、意向に配慮しながら。出来るだけ参加させて頂いています。	散歩に出かけた時には、近隣の方から話しかけられたり、登下校の子ども達が挨拶をしてくれたり、地域の一員としての生活が定着している。廃品回収やお祭り等の地域行事にはできるだけ参加をしている。「浅口見つけてネット」という行方不明捜索のネットワークがあり、情報提供に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議において、行政担当者や民生委員、地域分館長など地域の人に認知症の方の取り巻く環境、それに対する支援についての内容などをお伝えしてご理解頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回議事録を作成し、意見や問題点をそのままにせず次回開催までに報告出来るように事業所で話し合いを行い、サービス向上に努めています。	今年度は行事に合わせて会議を開催している。参加者は民生委員・行政から1~2名・家族などである。内容は事業報告に加えて、個人情報保護や終末期対応等、介護について等、伝える機会にもなっている。今の所、2ヶ月に1回の開催が難しく、不規則の開催となっている。	運営推進会議は、家族の参加も多く、内容も充実しています。今現在は、開催が不規則になっているので、2ヶ月に1回、開催できるよう、年間計画の作成など検討をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域行政担当者と密に連携を図り、情報の収集や指導を仰いでケアサービスに役立てています。又、地域推進会議にも参加して頂き、利用者の日常生活の様子やニーズに対する取り組みなど伝え、アドバイスを頂いています。	運営推進会議に参加があり、連携が図れている。また、制度変更や研修案内等、FAXでお知らせがあり、研修には出来るだけ参加するようにしている。生活保護を受給している利用者があるため、社会福祉事務所からケースワーカーの訪問があり、随時連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の言葉や気持ちに耳を傾け、常に利用者を見守っています。時折、落ち着かず、帰宅願望が激しい時には、ご家族に説明して一時的に一部施錠を行い、事故に繋がらないように措置をとらせて頂いています。事故防止や危険回避のために夜間、臥床時、家族の了承を得て、ベッド柵、センサーマットを使用しています。	玄関の施錠はせず、帰宅願望の強い方には見守りに対応している。身体拘束のマニュアルを作成、職員同士の話し合いも折にふれて行っている。家族の同意の上、夜間帯にベッド柵やセンサーマットを使用しているケースもあるが、必要の有無を会議で話し合い、できるだけ中止できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者が不穏状態になり、介護する側もストレスや疲労感を感じた時などには、ケアに影響しないよう、職員間でお互いのケアを見直し、申し送り、カンファレンスの時に話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合には職員に説明をし、アドバイスをしながら利用者の支援に結びつけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制についても詳しく説明を行って、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に地域推進会議を開き、ご家族の方や地域の方々の意見を聞き、ご家族、本人の苦情がある場合には検討し対応しています。	月1回、リーダー会議を開き、運営推進会議で出された家族の意見や要望を報告し、日々の支援に活かしている。面会時に利用者の様子を伝え、家族の要望を聞き、随時対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望、意見を聞くよう心がけているが不満や苦情を把握しきれない可能性があるため、日頃からコミュニケーションを図るように努め、スタッフの意見やアイデアを取り入れるようにしています。	事業所母体である病院の院長が参加し、職員の要望や意見を聞く機会を持ち、運営に反映している。内容は記録し、保管している。法人全体で年1回、事業所ごとにヒヤリハットや業務について報告する機会を持ち、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の就業環境を把握しており、職員各自のやりがい向上心を持って働けるよう職員の資格取得に向けて支援や健康管理を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会、外部研修会などへの参加は職員の可能な範囲で参加し向上に努めています。又、内容をカンファレンス時発表しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで他の施設職員と情報交換などして職場で活かせることがあれば検討し、サービス向上に役立てています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用者の生活状態、状況の把握に努め、少しでも不安を和らげるよう、声掛けをしています。又、利用者の気持ちを尊重し、色々な悩みや要望などに耳を傾けてその思いを受けとめるようにし、安心してもらえるように声かけに配慮しながら信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の生活状況を把握し、家族の思い、不安、疑問に思っていることを聞き、利用者とそのご家族が望む支援がどのようなものか、又、可能な支援やリスクについても説明し、話し合いを繰り返す中で信頼関係が築けるよう、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、入所時にご家族、利用者の困っていることや不安、どのような支援を望んでいるのか、又、事業所として対応出来る事、出来ない事をよく話し合い、信頼関係を築きながら、どのような支援が必要か見極め、徐々に馴染んで頂けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と笑いや楽しみ、喜びなどを共感し、毎日、楽しく過ごせるよう、利用者の立場になって支援するよう心がけています。洗濯物たたみやお盆拭きなど、お願いすると快く引き受けてくださり、「ありがとう。」の言葉で嬉しそうにされます。利用者に話を聞いて頂いたり、励まして頂く場面も多々あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、ご家族とも繋がりを深めていけるよう、面会時には、日頃の様子を伝え、利用者のご家族がゆっくり、過ごせるよう配慮しています。又、状態に変化があった時には、もちろん、なかなか面会に来られないご家族には、電話連絡をしたり、関係が途切れないように留意しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方がいつでも面会に来られるような雰囲気作りを心がけています。又、可能な範囲で地域の行事に参加したり、行きつけの美容院に出かけています。	友達や近所の人等の訪問があり、ときには一緒にレクリエーションを行い、楽しい時間を過ごすこともある。家族の協力により、外出や外泊をする利用者もいる。利用者のなかには手紙を書いたり、携帯電話で話をしたりする方もおり、親しい方との関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や個性を把握し、皆が楽しく過ごせるように、職員が間に入って話を取り持ったり、相談に乗ったりして利用者同士の関係が円滑になるよう、働きかけをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者や家族の方にも連絡、相談などがあった場合には、できる範囲で対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情等から真意の把握に努めています。意思疎通が困難な方は、利用者の行動が会話、又、ご家族から情報を得、意向を汲み取るようにしています。	日常生活の中で、利用者とマンツーマンで話をする機会を持ち、思いや意向を把握している。うまく言葉にできない利用者に対しては、表情やしぐさからその人の思いや意向を汲み取っている。また、家族からも生活歴など情報を聞き、介護に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報を得てより良いケアに繋がるよう、プライバシーに配慮しながら個人の状況の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、朝夕の申し送り、ケアチェック表を参考にし、職員同志で情報交換をし、出来る範囲で利用者の状態に合わせて介助するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の思いや意見を聞き、希望にできる範囲で添えるように努めています。アセスメントを含め、職員間で意見を交換し、モニタリング、カンファレンスを行っています。	ケアマネジャーが中心となり、介護計画を作成している。担当職員から利用者の情報やプランへの意見を聞き、プランに反映している。作成時には家族からも意見を聞くようにしている。医療面は主治医や訪問看護師の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄、バイタル等、日々の暮らしの様子、エピソード等、記録しています。又、新たな課題が出来た時には見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会などの行事には、案内状を送付し、ご家族の方にも参加していただき、一緒に楽しめるよう、食事も提供しています。又、急な外出等にも殉難に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議を定期的開催し、町行政担当者、包括支援センター、民生委員、地域分館長など参加、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いています。月1回、傾聴ボランティアに来て頂いて、話し相手となって頂いています。又、年に1回の夏祭には、地域の方にも参加して頂き、交流が持てるように工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入所前からのかかりつけ医の医療を受けられるよう、本人、ご家族の希望、依頼により通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうなど、複数の医療機関と関係を密に結んでいます。主治医とは、定時連絡、急変時には24時間対応の連携が来ています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっているが、協力医以外の場合、受診を家族にお願いしている。訪問診療をお願いしている医療機関が数力所あり、それぞれの医師と連携を図っている。協力医療機関とは24時間、いつでも相談や連絡ができるようになっており、安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえるよう、体調や些細な表情の変化も見逃さないように丁寧な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療出来るように、又、早期に退院出来るように情報交換したり、又、不安や混乱がないよう、職員が見舞うようにしています。家族とも回復状況など情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の容体悪化時には、早期に医療機関とご家族との話し合いが出来るように連携し、終末期に向けての方針など、ご家族にとってどうあえば良いのか、心の変化に配慮しながら、利用者が穏やかな最期を迎えられるよう支援している。	重度化した場合における指針を作成をしており、入所時に利用者、家族に説明を行っている。終末期支援において入院を希望する家族はほとんどなく、自然な形での看取りを実施している。職員全員、看取り支援を経験しているが、随時看護師から話を聞き、スキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に急変や事故発生に備え、地域の消防署の協力を得て、救急手当や蘇生方法を受講している。夜勤帯の急変時対応については、マニュアルを整備し、皆で周知、実際の場面に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設整備の点検は、三宅消火器店に定期的に依頼し、消防署の定期査察において不備がないかチェックして頂き、日頃から防災に心がけています。マニュアルを作成し、年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。	年2回、利用者も参加し、避難訓練を実施している。そのうち1回は消防署の参加がある。スプリンクラー設置、緊急連絡網の整備、非常持ち出し袋の用意など、災害対策を意識した取り組みが感じられる。	夜間想定避難訓練がシュミレーション対応となっています。2人の職員で避難誘導や通報など行うことになるため、実際に訓練をして頂くことを期待します。また、地域住民の協力体制についても検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、援助が必要な時にもまず、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけています。	理念にのっとり、利用者には敬意を払い、尊重した支援に取り組んでいる。名前の呼び方にも配慮し、同姓の利用者に対しては本人や家族の了承を得て、下の名前で呼んでいる。本人の気持ちを大切に考え、プライバシーを確保したケアを心がけている。	管理者より利用者への声かけを含めて接遇マナーの研修を実施したいと伺いました。実施に向けて計画して頂き、職員のスキルアップに繋がることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示の難しい利用者に対しての身体介護を行なう時には、それぞれ思いがあるので、「これから・・・します。よろしいでしょうか。」など、しっかり声かけをして、その方の表情や意思を聞いたり、確認の上で支援しています。(飲みたい物、食べたい物、する、しないなど。)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた、離床、臥床や食事の時間、食べやすい形態に工夫したり、入浴も気の進まないときには、少し時間を置いて声掛けをしたり、日を改めて入浴してもらったり、体調に合わせた対応をしています。行事などの段取りは職員の意向が優先しやすい面もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、化粧をしたり、髪を整えたりと利用者の思いを大切にしながら見守り、支援が必要なときに手伝うようにしています。自己決定出来にくい利用者、声掛けしながら、鏡の前で整容しながら「きれいになりましたよ。」など、声掛けしています。本人の馴染みの理美容院で希望に合わせたカットなどして頂いています。行事の時には、本人と一緒に考えておしゃれを楽しんでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の健康状態を把握して水分摂取量、栄養、食事が偏らないように注意しています飲み込みの悪い利用者には補助食品や嗜好品で補ってもらっています。	大きな菜園から収穫した野菜や果物を活かして臨機応変に献立も変更し、手作りの食事を提供している。利用者にも野菜の皮むきやお盆拭き等、できることは手伝ってもらえるよう工夫している。重度化により飲み込みが困難になった場合、補助食品などで必要なカロリーや水分が摂取できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の状態に合わせて食べやすいようにメニュー、形態を工夫し、体調に合わせた量にして摂ってもらっています。職員も利用者と共にテーブルを囲み行事の時には、家族の方も一緒に食べて頂き、和やかな雰囲気大切にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には、声掛けや見守りをし、出来ない方には、ハミングドでの口腔清拭、義歯の洗浄を含めて管理をしています。又、利用者の希望により、歯科医院に往診をお願いして義歯の調整、口腔ケアについてアドバイスを頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンをチェックし、定期的に声かけ誘導し、排泄できるよう、支援しています。夜間、トイレ移動の困難な方にはPTイレを用意し、対応したり、オムツ使用し定期的に点検、交換しています。	排泄チェック表によりパターンを把握し、日中は声かけや誘導を実施し、トイレで排泄できるよう支援している。夜間はポータブルトイレ使用や定時での誘導など個々に対応している。しっかりと睡眠を取ってもらうため、パットの交換のみの方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを排泄チェック表を見ながら把握し、水分摂取を促し、頑固な便秘ならば、状態に合わせて主治医に処方して頂いている下剤を服用、排便できるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日をチェックし、順番に入浴して頂くようにしていますが、体調に合わせ、本人の意思を確認し、入浴して頂くようにしています。入浴拒否をされたり、急に衣服を脱ぎだすこともあり、入浴日を変えたり、時間を変えたり、柔軟に対応しています。入浴のできない人は、清拭、足浴などで対応しています。	基本的に週2～3回、入浴支援を行っている。回数や時間などは利用者本人の気持ちを大切にしている。現在は希望がないので夜間入浴は実施していない。肌の弱い利用者には固形石鹸を利用する等配慮している。体力的に入浴が困難な場合は、体清拭や足浴にて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、出来るだけ、体調を見ながら、リビングに出て来て頂き、レクリエーションに参加して頂いたり、簡単な手作業して頂き、生活リズムを整えるようにしています。又、その人のペースで昼寝をしたり、夜間寝付けない時には話相手となるなど配慮してます。本人希望にて眠剤を服用されている方もいるので、主治医の処方して頂いている薬を管理し、協力して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個々の薬配ケースに貼布、スタッフが常に把握出来るようにしています。処方の変更があった場合には、連絡ノートに記載し、職員全員が確認出来るようにし、服薬時には本人に手渡しし、きちんと服用出来ているか確認しています。自分で服用できにくい利用者には、服薬支援をおこなっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な手作業(おしぼりたたみ、洗濯たたみ、ごみバック作り)で出来る事をお願いして感謝の言葉を伝えるようにしています。又、自室で読書したり、手紙を書いたりされる利用者が居られるのでテーブルを用意したり、環境を整えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により外出先は異なりますが、ご家族の意向で墓参り、法事、食事、ドライブに行かれる事もあるので続けられるよう、願っています。又、天気の良い日にはその人の体調を見ながら、散歩やドライブに誘い、気分転換を図っています。家族の協力により外泊も実現できています。	天気の良い日は近隣を散歩したり、ドライブに行ったりしている。家族の協力によりお墓参りや外食なども出かける利用者もおられる。事業所から地域のイベントなど外出する場合、利用者の体調や身体状況を考え、少人数で行うよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もおり、理美容院、買い物へ行った時には、財布から出して支払いされますが、自分で管理できない人が多く、ご家族からお金を預り、事務所で管理している人でも外出時には、ほしい物を買うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話をしたり、手紙を出したいと希望された時には、やりとりが出来よう支援しています。プライバシーが守られるように居室でご家族の方とお話出来るよう支援しています。手紙もはがき、便箋、封筒など、本人が希望すれば用意し、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど共同生活空間が分かりやすいようにドアに目印を表示したり、転倒防止のために照明の確保に努め、室温、温度に配慮して快適な空間作りを心がけています。リビングはゆったりした広さがあり壁には行事写真や季節の飾りを工夫しています。	門から玄関まで季節の花々や緑豊かな木々があり、少し歩くだけでも楽しみが感じられる。フロアにも鉢植えの花や観葉植物、窓の外にグリーンカーテンの緑があり、リラックスできる空間作りが工夫されている。壁には季節の折り紙や行事写真が飾られ、季節感が感じられる。廊下や玄関、フロアなど車椅子での移動も安全にできる広さがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブル、椅子、ソファを配置し、自由に寛げるようになっていきます。食事時には、自分の席が用意してあるので落ち着いて食事が出来ます。又、テレビもゆっくり見たい時には、席を移動して見て頂け、お茶の時間やレクリエーションは好きな場所で楽しめるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の入り口には表札を掲げ、ご自分の部屋を確認できるよう、目印にしています。出窓には、鉢植えの花や観葉植物が置いてあり、壁には、写真や手作りの壁掛けを掛けてあります。ベットやタンスは利用者の希望や要望の合わせて使いやすい配置にしています。	居室の入り口には表札が取り付けられ、利用者が自分の部屋を確認出来るよう工夫している。利用者が落ち着けるよう、観葉植物や写真など飾られている。居室もゆったりとしたスペースがあり、遠方から家族が面会に来た時や看取り支援の時には同じ部屋で泊まることもできるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、てすりの増設、玄関のスロープ化を実施しています。ホーム内も安全に移動できる様な、ゆったりとした見通しの良いスペースになっており、車椅子でも自力での移動も安全に出来、職員も見守りしやすい間取りになっているが、障害物がないように配慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700553		
法人名	医療法人社団 宇根本会		
事業所名	グループホーム なごみ(東ユニット)		
所在地	岡山県浅口郡里庄町新庄2920		
自己評価作成日	平成26年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvoCd=3372700553-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成26年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(第2ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝8時45分定時に、なごみ事務所にて「なごみ基本理念」を職員で斉唱することで1日の始まりとし、その場で管理者から連絡や注意事項を伝えています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事の案内があれば、出来るだけ参加させて頂いている。PTA主催の資源回収、秋祭り、友愛セール、里庄小学校運動会、学芸会などに出向いたり、ホームでは、お誕生日会、お楽しみ会などにボランティアの方が見えられ、大正琴やフラダンスなどを披露してくださっています。ご家族にもできるだけ参加して頂くために、事前に連絡をしています。地域ボランティア「すみれの会」の方が毎月1回1時間ほど傾聴ボランティアで来所され利用者の方とお話をしたり、歌を唄ったりし、楽しく過ごして下さいます。又、散歩時には近隣の方や子どもさんたちと挨拶や会話を交わすなどの交流もあり、利用者の方にも笑顔が見られます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議において、行政担当者や民生委員、公民館など地域の方に認知症の方を取り巻く環境、それに対する支援についての内容などをお伝えして、ご理解を深めさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、議事録を作成し、意見や疑問点を掘り下げ、次回開催までに評価及び問題解決に繋げ、報告できるように職員で話し合いを進め、サービス向上により努めてまいります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域行政担当者との連携を密にし、情報の収集や指導を仰いで、ケアサービスの向上に役立っています。研修の機会を活かし、認知症対策や感染予防対策などに対し、今後の取り組み方など伝えると共にご協力頂いています。尚、介護認定更新時には、利用者の日常生活の様子やニーズに対する取り組み等を伝え、アドバイスを受けています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者の言葉や気持ちに心を配り、常に見守っているが、利用者の方が時折落ち着かず、脱出(帰宅)願望がある場合、ご家族に説明の上、一時的にリビングの出入り口などを施錠し事故の発生を未然に防ぐ措置を行なうことがあります。又、夜間ベッドから降りようとされたり、危険な動きが見られる場合も、ご家族に説明、承諾を得た上で、ベッド柵を使用する場合があります。安全安心を第一に利用者の話を聞き、不穏の原因を探り、時には、ご家族にご協力を頂き利用者の希望を叶え、不安を取り除くようなケースもあります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体が、基本理念を念頭に言葉の虐待、身体的虐待、心理的虐待がないか、個人の尊重や自由について考え、温かみのある関わり方ができている。職員同士お互いのケアに注意を払い、虐待防止に努めています。利用者の対応で職員自身ストレス、疲労感が溜まることもあるので、管理者は職員の健康管理に留意し、日常的に共感、或いは解決の手段をアドバイスし利用者へ適切な支援が行えるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が学ぶ機会は、設けられてはいませんが、成年後見が必要なケースがあるときは、管理者などへすみやかに連携が出来るよう、心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金や起こりうるリスク、重度化や、看取りについての対応方針医療連携体制について、何事にも詳しく説明を行い、十分な話し合いの上で同意を得るようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、日頃の会話や、コミュニケーションの中で、ご家族は面会時や電話であったり、機会を捉え、職員全員が気軽に問いかけ、何でも言ってもらえるように雰囲気作りをしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望、意見を聞くように心掛けているが、不満や苦情を把握しきれていない可能性がある。出来るだけ日頃からコミュニケーションを図るように努め、職員の意見やアイデアを、取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の就業環境を把握しており、職員各自のやりがい向上心を持って働けるよう職員の資格取得に向けて支援や、健康管理に気をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を毎月第一水曜日に可能な範囲で参加し向上に努めています。又、内容をカンファレンス時発表しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、地域の交流会、お誕生日会の交流など積極的に行っています。研修会に参加して、サービスの質の向上に役に立てております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者のご家族の思いに耳を傾けお互いに信頼関係が得られる様、職員が寄り添い利用者が笑顔で居られるように関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方の本人への思いを大切にし、しっかり話し合い、受け止め支援を含め見極められるように行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の方と繰り返し相談する事で密な関係を築き利用者の本人への支援を含め見極められるように行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々穏やかに過ごせる様に人生の先輩から教わることもあります。暮らしを共にするもの同士、笑顔を絶やさない様に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の新たな発見、気づいたことを来所時に伝えつつ、体調に変化があれば電話連絡しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が手紙を出されるお手伝いをしたり、遠方からの来所者が来られるくらい人望が厚い方がいらっしゃるのに関係が途切れないようにしています。身だしなみにも気をつけ、髪が伸びれば美容師の方をお願いしたり、又、外出時に行きつけの所へ行かれる方もいらっしゃいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に過ごすこともありますが、皆で輪になりお互いに楽しく暮らせる場を提供していけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからも、職員が気軽に声を掛けたり、声掛けして下さったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が出来る方には、しっかり話を傾聴し、笑顔で喜んで頂けるように、又、困難な方には利用者のさりげない行動や会話の中から思いや意思を汲み取るようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を頂きより良いケアに繋がるよう、プライバシーに配慮しながら行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりの体調管理、状態を記録に残し、朝、夕の申し送り、連絡帳を活用し、職員同士で情報交換し、出来る範囲で利用者の状態に合わせて介助するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人別のケアチェック表を活用し、記録に残してそれを基に意見交換、カンファレンスを行い、援助に繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、実施していますが記録を活かしきれず、実践に繋がらない事もあります。新たな課題が出来た時には、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のご家族が安心して暮らしていくための必要なサービスを臨機応変に提供し、お誕生日会などの行事には、案内状を出し、ご家族の方に参加して頂き、一緒に食事をしてもらえるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続していくために、ボランティアの方の情報を得て、ご協力頂いている。又、レクリエーション用品の貸し出しなど、地域にある資源を利用させてもらったり、相談に乗ってもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入所前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族の依頼により通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうなど、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。主治医とは定時の連絡、急変時には24時間の対応体制が整っています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態観察に応じた支援を行なえるようにしています。些細な変化や気づきにも丁寧な対応で利用者や介護職員のよき相談相手となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、又、早期に退院できるよう情報交換しています。入院中には、不安や混乱がないように職員が見舞うようにしています。ご家族とも、回復状況な情報交換しながら速やかに退院支援に結びつけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の容体の悪化時には、早期に医療機関と、ご家族との話し合いが出来るように連携し、予後についての利用者のご家族に理解を得て頂き、終末期に向けての方針など、利用者のご家族にとってどうあったら良いのか、ご家族の心の変化に配慮しながら利用者が穏やかな最期を迎えられるよう支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変や事故発生に備え、地域の消防署の協力を得て、応急手当や蘇生法を受講しています。夜勤帯の緊急時対応についてマニュアルを作成し、皆で周知し実際の場面で活かせるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設設備の点検は、三宅消火器に定期的に依頼し、消防署の定期査察において不備がないかチェックしてもらい、日頃から防災を心掛けています。マニュアルを作成し、年2回、利用者と共に避難訓練を実施しています。地域の協力体制についても地域運営推進会議で協力を呼びかけています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての敬意と払い、利用者それぞれの生活観の違いや、本人の気持ちを考えながらさりげないケアを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示の難しい方には「これから〇〇します、よろしいですか？」とその都度説明し、表情を読み取ったりしながら、本人の意向を確かめる働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のライフスタイル、体調、気分などを把握し、なるべくそれぞれのペースに合わせた支援を行えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意志表示される方にはご希望の服を着て頂いています。自己決定が難しい方は、なるべく本人の好みや、その人らしさを大切にしながら支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの好み、体調に合わせた量、メニューにしたり、食事の際はなるべく職員も一緒にテーブルを囲み、話をしたりしながら食事をし和やかな雰囲気を大切にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分摂取量を把握し、排泄回数や、毎月の体重測定などから一人ひとりの状態を観察し、足りないときは補助食品や、嗜好品で補っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方には声掛け見守りし、義歯のみの方、自力で出来ない方にはハミングッドを使用し、口腔内の清潔保持をしています。又、変わった事があったり、本人希望で歯科医院へ往診をお願いします。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレへの声掛け、誘導で排泄できるようにしています。リハビリパンツ・パットも利用者にあった物や使い心地の良い物を使用するようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンをチェック表で確認しながら、水分摂取をして頂き頑固な便秘ならば状態に合わせて主治医に処方して頂いている排便促進剤・下剤を服用し、スムーズな排便が出来るようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めずに利用者のその日の体調や希望に合わせて入浴していただいています。又、入浴拒否の方は翌日にしています。入浴できない日には、清拭・足浴・ドライシャンプーで対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴・レクリエーションなどの日中の活動をし、生活リズムを整えるように努めています。利用者ペースで昼寝をしたり、夜寝付けない時には話相手になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個々の薬配ケースに貼付スタッフが常に見てわかるようにしています。処方の変更があった時には連絡ノートに書き、職員全員がわかるようにしています。服薬時には、職員が口の中に入れたり、渡し服用できているか確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションに参加して頂き、体操をしたり、歌を唄ったり、ゲーム、言葉遊びなど工夫を楽しんでいただいています。又、おしぼりや洗濯物量など出来そうなことを頼みお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	職員が利用者の体調に合わせて散歩、ドライブ、買物などに誘い、気分転換を図っています。又、ご家族の協力もあり季節の行事、花見・運動会などに見物に出掛けています。天気の良い日には、散歩をしたり、外気浴に出掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から当座の現金を預かり、必要時の買い物に使っています(散髪代)ほとんどの利用者はお金の管理が出来ず職員が金銭出納帳に記入しご家族の確認を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話をしたい方、取次や伝言を頼まれるとタイムリーに対応し希望を叶えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど共同生活空間が判断しやすいように目印を扉に表示したり、日中の採光、夜間には適当な明かりで転倒防止をし、室温、温度にも、配慮して快適な空間づくりをしています。キッチンから料理の匂いがし、テレビの音など生活感があふれています。壁には手作りのカレンダーで日にちを判断してもらえるようにしています。ホームの庭にはグリーンカーテンや花々が咲き野菜作りもしています。玄関には季節の花を飾り、靴脱ぎ椅子も用意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルや椅子、ソファを配置し自由に好きな場所で寛げるようになっています。食事時には自分の席が用意してあるので、落ち着いて食事ができます。お茶の時間やレクリエーションが好きな場所で楽しめます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に表札を掲げ可愛い目印の飾りや写真もつけ明るい雰囲気になっています。部屋には個人の馴染みの家具や思い出の品を置いたり好みの飾り付けができており、疲れを癒したりプライバシーの確保ができています。利用者自身の生活スタイルに合うように部屋には馴染みの家具、家族写真などが飾られ出来るだけ家と変わらない生活出来るよう配慮しています。部屋には洗面台もあり歯ブラシや化粧品など整理しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で車椅子を操作できる利用者にホーム内の移動が安全に出来るよう、ゆったりとしたスペースがあり、職員も見守りやすく、見通しが利くような間取りになっています。居室では自力操作がしやすくベッドへの移動や必要な物に手が届きやすいよう、ベッドの位置や家具の配置も利用者と相談し決めており、自立した生活が送れるように工夫しています。		